



バッグ式カキ養殖日本初成功

中津干潟

豪の技術導入 今年末から本格販売へ

2/7 毎



バッグで養殖したカキ

中津市・小祝漁港沖の中津干潟で奥漁協中津支店がバッグ式カキ養殖に、日本で初めて成功した。従来の筏にぶら下げる養殖ではなく、オーストラリアでは既に企業化されているバッグ（かご）に入れる方式を採用、収穫までこぎつけた。市農政水産課によると、中津干潟は周防灘

に面し、浅くて風が強く、針金のつり下げ式は不向きなため、潮の干満を利用したバッグ式で試したところ、大きく成長した。

同支店は2012年8月から実験をスタート。3列（1列75袋）に取り付けた計432個のバッグ（直径20センチの円柱）に、計約1万6000粒の種苗を入れた。潮流によってバッグが回転するためカキが転がってフジツボも付きにくく、きれいに育ったという。

4日に試食会が行われ、技術指導をした南オーストラリア州のカキ業者らも出席、新員正勝市長らと一緒に

「ふうふう」いいながらクリーミーな焼きガキをほおぼっていた。

今回、約2万5000個を収穫。漁港にカキ小屋を設置し、7、16日に焼きガキや定食などを販売。今年末から本格的な市販に乗り出す予定。将来は輸出も視野にいれる。問い合わせは同支店0979・22・2103。

【大瀧実知朗】